

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	専門教育・教養教育の位置づけ (学部)
	コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部)
	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院)
	理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 初年次に専門教育の導入となる科目を効果的に配置する。	→「1年次配当専門科目の開講数と受講者数・履修登録率・単位取得率」	B	B			
2. 2年次以降に学修ニーズや進路の希望に応じたコース制を設け、専門科目を体系的に配置する。	→「コースについての学生満足度調査」	B	B			
3. 演習のメニュー・開講数を増やし、各年次に開講して履修できるようにする。	→「ゼミ形式の少人数教育科目の開講数(専門分野別・配当年次別)と履修登録率・単位取得率」	B	B			
4. 英語・仏語中期留学、国連ボランティア科目、外国語インテンシブ・プログラムの受講を促す。	→「英語・フランス語中期留学、国連ボランティア科目、外国語インテンシブ・プログラム受講者数・履修登録率・単位取得率(学科別・学年別・男女別・コース別)」	B	B			
5. ライフデザイン科目の受講を促進するとともに、コース制に沿った職業支援的な科目を設ける。	→「インターンシップ関連科目の受講者数・履修登録率・単位取得率(学科別・学年別・男女別・コース別)、職業支援的科目の開講数・受講者数・履修登録率・単位取得率」	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 2012年度実施予定のカリキュラム改革に向けて、拡大カリキュラム委員会を中心に、カリキュラムのあり方について入念な議論を重ねてきた。ここでの議論を元に、より適切な授業科目の開設、およびカリキュラムの体系的な編成を実施するという目標を達成しつつある。
★小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 新カリキュラムの編成に当たっては、科目についても、スクラップ・アンド・ビルドを行い、新設科目の設置、科目の廃止、統合によって、より相応しい教育内容を提供するという目標を達成しつつある。
その他	

《評価指標データ》

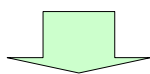
MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

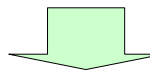
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○「現状の説明」6.2.1および6.2.2とも、「目標を達成しつつある」との自己評価ですが、学外者には具体的な内容や判断の根拠がわかりにくいので、より明確な記述が望まれます。

【学内委員】

○教育課程・内容に関して検討が進められていることは評価できます。ただし、小項目6.2.1の現状説明では、具体的な議論の内容に関する記述が全くありません。ごく一部であっても具体的に述べることを望まれます。

○小項目6.2.1、小項目6.2.2ともに、現状の説明において、「目標を達成しつつある」と記載されているが、これらを裏付ける具体的な記載やデータが示されていません。

○カリキュラムの検討中であることは理解できますし、そのことは大変評価できますが、現状の教育課程の編成や教育方法の提供の状況がまったく分かりませんので、要素などを参考にした説明が望まれます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・教育目標、学位授与の方針、教育課程の編成と実施方針、教育内容の順に定められるものです。順序通りではなくても、少なくとも同時並行で検討されていると推測されます。2009年度に設定された目標についても、これらの検討の結果を踏まえて検討を加えられることが期待されます。

・各種の指標の動きを踏まえて、どのように効果が上がっているかが記述されることが望ましいと思われまます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○ 要素「初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学部）」

初年時教育について、現在は導入科目の「基礎演習」を必須科目として配置しているが、2012年度から実施予定の新カリキュラムでは、テクニカルな面に重点を置き内容を統一した「スタートアップ演習」を1年次春学期に新設し、秋学期の「基本演習」2年次の「コース導入演習」を選択科目として設置することとした。

○ 要素「学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部）」

★ 現状の教育課程自体、基礎から専門まで学士課程教育として基本的な水準を維持していることを前提としているが、2012年度からは、コース分けも変更し、卒業後、法律専門職を目指す学生のための、司法特修コースを新たに設置することとした。

○ 目標4については、現状把握のために指標を整備しつつ、特に外国語教育担当教員による受講促進の試みを進める。

○ ライフデザイン科目については、12年度からは、1年時における基礎教育の一環として一部導入を図り必修化する予定。インターンシップ関連科目については、現状把握を進めるとともに、初年次において受講を促進していく。